

各関係機関団体の長 }
各病虫害防除員 } 殿

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

令和 7 年度病虫害発生予察特殊報第 2 号について

このことについて、下記のとおり発表したので送付します。

特殊報第 2 号

- 1 病害名 黒点根腐病
学名：*Monosporascus cannonballus* Pollack & Uecker
- 2 発生作物 キュウリ（カボチャ台木）
- 3 発生の経過と概要
令和 7 年 9 月下旬、県北部のキュウリ栽培施設において、ハウスの約 1 割の株で萎凋症状（図 1）が発生し、約 2 週間後に枯死に至った。当該被害株の根部は褐色に腐敗し、表面に複数小黒点（子のう殻）が確認された（図 2、3）。罹病株について農林水産省門司植物防疫所に同定依頼をしたところ、本県ではこれまで未確認のキュウリ黒点根腐病であることが判明した。
- 4 国内での発生状況
キュウリ（カボチャ台木）黒点根腐病は、平成 23 年に滋賀県、平成 26 年に岡山県、令和 7 年に高知県で発生が確認されている。なお、自根キュウリでは、平成 18 年に岩手県で確認されている。本県では、キュウリ（カボチャ台木）黒点根腐病は初確認である。
- 5 本病の特徴
 - （1）病徴
収穫期頃から地上部に萎凋症状が見え始める。発病初期には晴天の日中に萎凋し、朝夕や曇雨天には回復する。これを繰り返した後、急激に枯れ上がる。根は、初め細根が腐敗脱落し、残った根はアメ色に腐敗する。症状が進むと根部表面に直径 0.3mm 程度の小黒点（子のう殻）が形成される（図 2）。
 - （2）生態
病原菌はウリ科作物を特異的に侵す。培地上では 11～37.5℃で生育し、最適温度は 30℃前後と高めである。罹病株の根部に形成された子のう核は長期間土壌中に残存し、伝染源となる。
- 6 防除対策
 - （1）令和 8 年 2 月 26 日現在、本病に対して登録のある農薬はないため、発病株は見つけ次第抜き取って処分する。残根はできるだけほ場に残らないよう丁寧に処理する。
 - （2）土壌の過湿や乾燥を避け、根の生長を促進し、被害の軽減を図る。
 - （3）本病の発生したほ場の耕起、整地を行った管理作業機などに付着した土壌は丁寧に洗い落とす。

(4) 発生ほ場では連作を避け、ウリ科植物以外の作物を栽培する。



図1 ほ場での発生状況



図2 根上に形成された小黑点（子のう核）



図3 子のう核内部の子のう胞子
(顕微鏡観察)

病虫害防除所のホームページでは、各種病虫害の発生状況を随時更新しています。
発生状況の把握や防除の参考にご活用下さい。

○福岡県病虫害防除所のホームページへのアクセス

URL: <https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/fukuoka-bouzyosyo.html> または下記QRコード①

○Xアカウント（福岡県農作物病虫害情報）へのアクセス

定期情報や警報等発出のお知らせをしています。

URL : https://x.com/PPDPO_Fukuoka または下記 QR コード②



QR コード①



QR コード②